

パレスチナ支援調整委員会（AHL C）会合における
岸田外務大臣スピーチ
（9月25日，於：国連本部）

（冒頭）

まず，AHL C会合を主催したアイデ外相及びノルウェー政府に敬意を表します。

（現地情勢）

米国の仲介努力により和平交渉が再開されたことを歓迎するとともに，日本は国際社会と連携してこれを支えていく考えです。

（日本の取組み）

交渉の進展と和平の実現にはパレスチナの経済・社会の安定が不可欠との認識の下，日本はオスロ合意以降，インフラ整備，公衆衛生，人材育成，制度づくり等，幅広い分野でパレスチナ支援を積極的に行ってきています。現在も，昨年度と同様に食糧支援を実施する方向で検討しているところです。

加えて，持続可能な経済発展に向けて，民間セクターの活性化，近隣諸国との連携，ドナー拡大，人材育成支援等が重要と考え，「平和と繁栄の回廊」構想と「CEAPAD（シーパッド）」の2つのイニシアティブに注力しています。

一つ目の「平和と繁栄の回廊」構想は，地域協力によりパレスチナの経済的自立を目指すものです。先般，私

はジェリコで、パレスチナ、イスラエル、ヨルダンの閣僚の参加を得て、約5年ぶりに4者閣僚級会合を開催したところです。同構想の旗艦プロジェクトであるジェリコ農産加工団地（JAIP）では、現在、入居企業第1号が決まり、その他に26社が契約交渉を進めています。また、JAIPに次ぐ事業として、観光分野の地域協力プロジェクトを提案したところです。お集まりの国々の企業の参加も得たいと考えていますので、是非とも協力をよろしくお願いします。

2つ目のCEAPADは、東アジアの経済発展の知見・経験をパレスチナ支援に動員する「パレスチナ開発のための東アジア協力促進会合」で順調に進展しています。本年2月の東京での第1回閣僚級会合に続き、今月にはバンコクで人材育成支援の調整を目的とした会合を実施し、今後11月にビジネス促進会合を東京で、来年初めに第2回閣僚級会合をインドネシアで開催予定です。東アジアの潜在力が支援の大きな力となる日もそう遠くないと信じています。

さらに、今後は東アジア諸国による回廊構想への関与やCEAPADの人材育成支援を受けたパレスチナ人の回廊構想への活用など、両イニシアティブの連携も推進していく考えです。また、これらの取組は、米国やカルテットが計画する西岸開発のための経済イニシアティブと親和性を有しており、今後連携の可能性を探っていきたいと考えております。

日本は、「二国家解決」による和平実現の環境作りとし

て、独自の強みを活かしながら、引き続きパレスチナの国造り努力を支援していきます。また、今後、直接交渉の進展を支えるべく、国際社会のより多くの国を動員し、民間セクターの役割をより重視した対パレスチナ支援の在り方を共に検討していきたいと考えます。

ご静聴、ありがとうございました。